**第３学年１組　図画工作科学習指導案（図画工作室）**

１　題材名　タッチ、キャッチ、さわりごこち（鑑賞（１））

２　本時の学習指導（１・２／２時）

　（１）目標

　　　○自他の表現について友人と話し合いながら、材料の感じをとらえる。（鑑賞の能力）

（２）準備

　　　○教師　色画用紙（９ｃｍ四方）

　　　○児童　はさみ、木工ボンド、化学接着剤、身近な材料

（３）展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習活動、予想される活動∞  児童の具体的な姿（「」） | 指導の工夫 | 評価と手立て、評価規準、【評価方法等】 | 時間 |
| （いろいろな触りごこちの身近な材料を用意しておく。）  １導入  ２　いろいろな触り心地の材料を画用紙に貼って、「さわりごこちコレクション」をつくる。  ∞　いろいろな材料を試しに置く。  ・「ペットボトルのキャップをどの向きではろうかな。」  ↑行き戻り↓  ∞　材料を画用紙に貼りつける。  ・「この向きだと触り心地がいいから、この向きで貼ろう。」  ３　鑑賞  ∞　教室内を歩き回り、友人の作品を鑑賞する。  ・「同じ紙を使っているのに、自分の作品と触り心地が違うな。」  ４　まとめ  ∞本時の学習の振り返り。  ∞コメントカードの記入。  ５　後片付け | ○前もって、身近なものの中から、いろいろな触り心地のものを用意するように児童に連絡しておく。  提案　いろいろなざいりょうのさわりごこちのちがいをみつけよう。  ○実物を提示して、本時の活動を確認させる。  ○画用紙の色、材料を貼る向き、折り方によって、同じ材料でも違った作品になる例を紹介することで、児童が工夫して作品作りに取り組めるようにする。  ○危険物（例　画鋲、針等）の使用を禁止し、自他の作品を鑑賞する際に、接着時間が短いため取れないように触れることを統一する。  ○材料を試しに置いたり、並べたりさせ、表したいことを考えさせる。  ○材料を色紙にどのようにはるかによって、触り心地が変わることに気付くようにする。  ○出来上がった作品と児童を、図画工作ファイルへ入れるため、写真を撮影する。  ○化学接着剤の使い方や使用上の注意点を説明しておく。  ○触り心地を画用紙の裏側に書いて、言語化を図るようにする。  ○友人のさわりごこちコレクションの鑑賞を行い、自分の気持ちを話したり、友人の考えを聞かせることで、様々な材料の感じの違いをとらえられるようにする。  ○児童を数名抽出し、本時の学習活動の感想を述べさせ、それをコメントペーパーへ記入させることで、本時で感じたことを文字に起こすことができるようにする。  ○役割分担をし、後片付けを効率的に行うようにする。  ねらい  いろいろなざいりょうのさわりごこちのちがいをみつけよう | 鑑　自他の表現について友人と話し合いながら、材料の感じをとらえている。  　【行動観察・対話】  [努力を要する状況と評価した児童への手立て]  ○友人と話し合うように促し、複数の作品を例に取り、触り心地についてたずねる。 | 10’  50’  20’  5’  5’ |

３　板書計画

まとめ

・同じ材料でも触り心地が違った。

・同じ作品でも、人によって、感想が違った。

　　　・さわりごこちコレクション

注意点

・とがっているもの**×**

・さわるときはやさしく

・ボンドは少なめに

　　　画用紙の色、材料の向き、折り方

　　　　　　ちがったさわりごこち

４　備考　在籍児童数　３５名